

言語聴覚士による

言語障害者のコミュニケーション

～各障害の違いと業務におけるアセスメント等の関わり方～

医療法人社団英世会 介護老人保健施設カトレア

言語聴覚士 杉山達也

はじめに

言語障害のことを理解できていますか？

言語障害の方とコミュニケーションをうまくとれていますか？

こんな経験ありませんか

- 相手の言っていたことが、後日変わってしまっている
- 声が大きいと怒られてしまう
- ケアプラン作成にあたり内容の同意を得られない、理解されない
- 本人が会話をしたからない
- ケアプランの内容や各資料など見たからない

言語障害があることで

- 本人のHOPEをきちんととれていない（家族の意思が優先？）
- ケアプランの意図がきちんと理解できていない
- ケアマネジャーの仕事が理解できていない
- コミュニケーションが上手にとれなくて関係性が築けない

言語障害

失語症

音声障害

運動障害性構音障害

器質性構音障害

機能性構音障害

認知症

失語症

失語症のイメージ

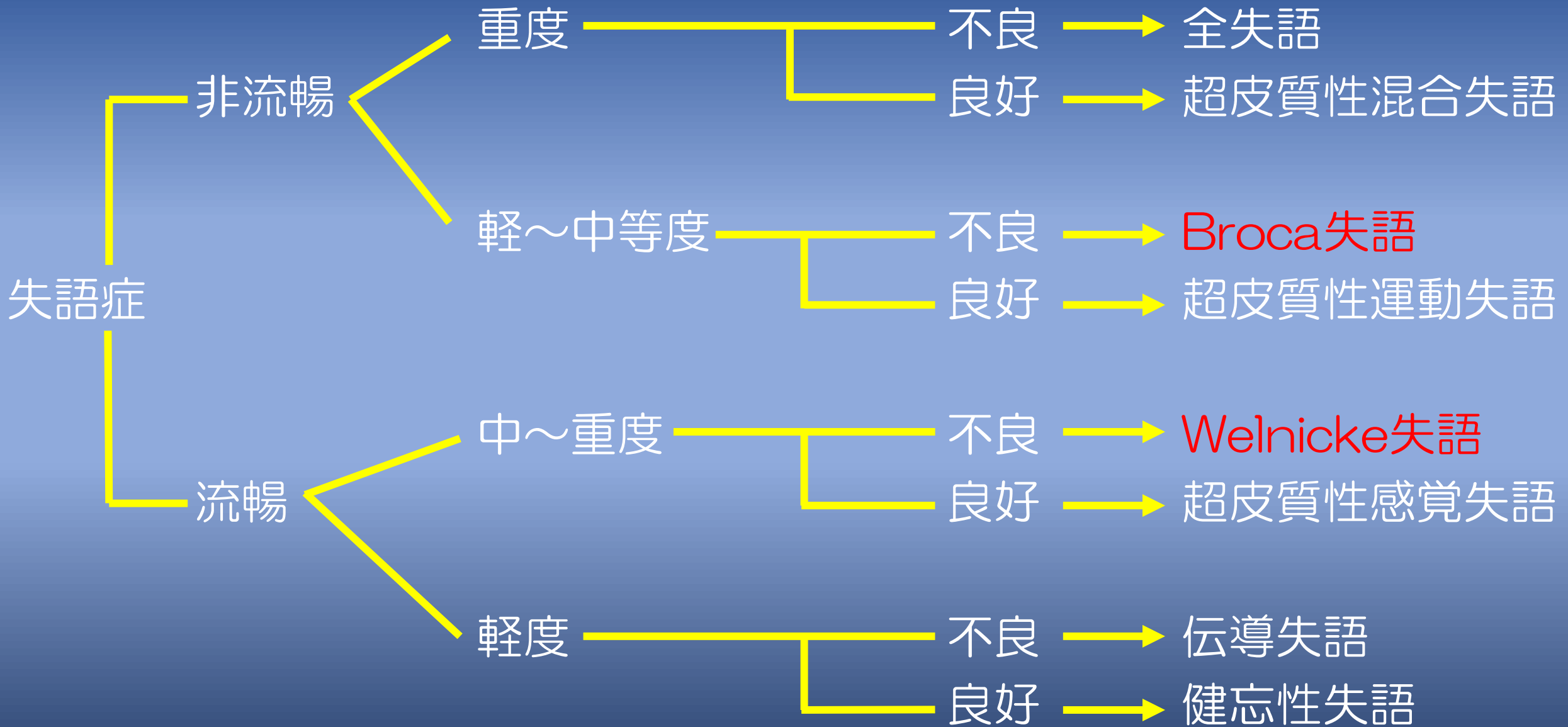


〈発語の流暢性〉

〈聴覚的理解の障害〉

〈復唱〉

〈タイプ〉



失語症

コミュニケーションに必要な4つの側面

話す、聴く、読む、書く

この4つの側面すべてが障害されている。

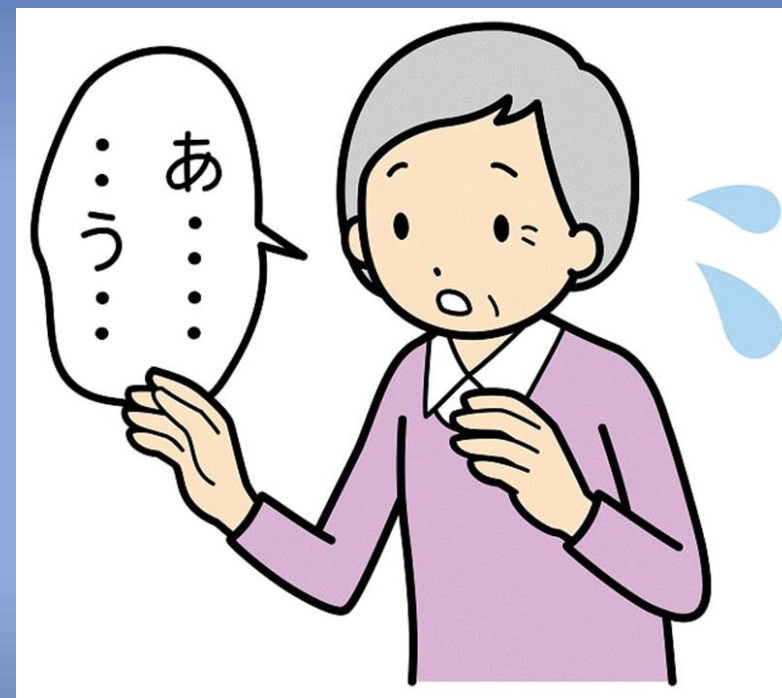


失語症の症状(一部)

- 「言葉が出ない」
(易) 高頻度語 $\longleftrightarrow$ 低頻度語 (難)
- 「言い間違いが多い」
音韻性錯語 (眼鏡 $\rightarrow$ 「めがれ」)
語性錯語 (歯ブラシ $\rightarrow$ 「くし」)
新造語 (新聞 $\rightarrow$ 「しゃくしどう」)
- 「滑らかに言葉は出るものの、その場に適切な言葉が選べない」
- 「意味不明な言葉を話す」 ジャーゴン
- 「音は聞こえるが、話しかけられた内容が理解できない」
- 「文字が読めない・書けない」
- 「文字は読めても内容は理解できない」

「言葉が出ない」はブローカ失語でない

言葉が出ない！！（喚語困難）
⇒失語症の主症状であり、どのタイプの失語症にみられるもの。



言葉がでないから聴く理解が良いと思って関わってしまうと大きな間違いを起こしてしまう。

失語症

【ブローカ失語】

- 非流暢な発話
- 短い単純な発話
- 電文体
- 内容は正しく構文や文法の誤り
- 誤りの自己修正
- 理解力の障害
- 読む、書く、計算の障害

【ウェルニッケ失語】

- 流暢な発話で途切れない
- 構音は良好
- 造語と錯語
- ジャーゴン
- 乏しい聴理解
- 誤りにほとんど気づかない
- 理解力の制限を認識していない
- 失読、失書

コミュニケーションの取り方 (ブローカ失語)

- 話すために時間を十分にとる
- キーワード、単語帳などの使用
- 対象者が言ったことを理解できない時はそのことを伝える
- ボディランゲージと表情に注意する
- 理解力の課題評価をしない
- 意味が反転する可能性がある文章を使わない
- 文法構造の単純化
- キーワードの強調
- 文字と聴覚刺激の同時提示
- 資料の提供
- 印刷物の拡大（必要に応じて）

可逆文と非可逆文

非可逆文とは、語の意味で理解可能な文。

(例) 「お母さんがリンゴを食べる」⇒「お母さんリンゴ食べる」
「が」「を」の助詞がなくても、また語順が「りんご お母さん
食べる」のように転置していても、それぞれの単語の意味さえ
把握できていれば、理解可能。

可逆文とは、助詞の役割もしくは語順の理解がないと、意味が把握できない文。

(例) 「お父さんが女の子を押す」⇒「お父さん女の子押す」
単語の理解だけでは、どちらがどちらを押している状況なの
か判断できない。

コミュニケーションの取り方 (ウェルニッケ失語)

- 止める手段：対象者の発話を止めるための手がかりとして、ジェスチャーを用いる
- 書かれた名詞を提示する（情報伝達のためのキーワードや絵）
- まわりくどい言い方を許可する
- 書き言葉、話し言葉を簡素にする
- 意味ある文脈（個人に関連したものを利用）
- ゆっくりはっきり、通常の音で話す
- 向き合って話す
- 理解のための時間を与える
- 聴理解を助けるためのキーワードを書面提示する
- 一般的な語と簡素で直接的な文法を用いる
- 同じ内容を異なる語で話す
- 書字は難しいかもしれない

直接的なとは

「パスタでも食べに行かない？」と誘われたら

Aさん:「友達と予定があるから、行きません」

Bさん:「せっかく誘ってもらったんだけど、私ちょっと今日は。。。ごめんなさい。」

二人の返答の違いは？

⇒Bさんには、断りの言葉は一言も言わない間接的な言い方

日本人は

「今日はそのつもりでなかったし、先に入れた予定もあるし、本当は行きたいけど、行けないんです。本当にすみません。また誘ってください。」とお詫びとともに関係修復のための言葉を添えてしまう。

50音表や透明文字盤

あ	か	さ	た	な	は	ま	や	ら	わ
い	き	し	ち	に	ひ	み	ゆ	り	を
う	く	す	つ	ぬ	ふ	む	よ	る	ん
え	け	せ	て	ね	へ	め	。	れ	？
お	こ	そ	と	の	ほ	も	ゝ	ろ	
0	1	2	3	4	5	6	7	8	9



脳卒中

運動障害性構音障害

口、舌の麻痺で起こるものです。発声や発音が悪くなりますが、聞いたり、書いたりすることは普通に可能です。

失語症

脳の言語中枢の障害のために、言葉そのものがわからなくなる状態です。話すことだけでなく他の言語機能も障害されます。

運動障害性構音障害

- いつも違う音に間違ってしまう
- 音が歪んでしまう
- 呂律が回らない
- 声の大きさ、高さ、持続時間の異常が生じる。
- 声の大きさや高さが一様となり、発話が単調に聞こえたり、発話速度が変化したり、発話リズムが乱れるなどの異常が生じる。

脳卒中以外にパーキンソン病などの神経難病などでもおこる

失語症との違い

失語症	運動障害性構音障害
物の名前がでてこないことがある	物の名前はでてくる
歌を歌えることができる	歌が歌えないことがある
ニュースを聞き取れない、理解できない	ニュースを聞き取れる、理解できる
本や新聞が読めない	本屋や新聞を読むことができる
日記が書けない	日記を書くことができる
50音表が活用できない	50音表が活用できる
HDS-R実施可能、信頼性低い	HDS-R実施可能

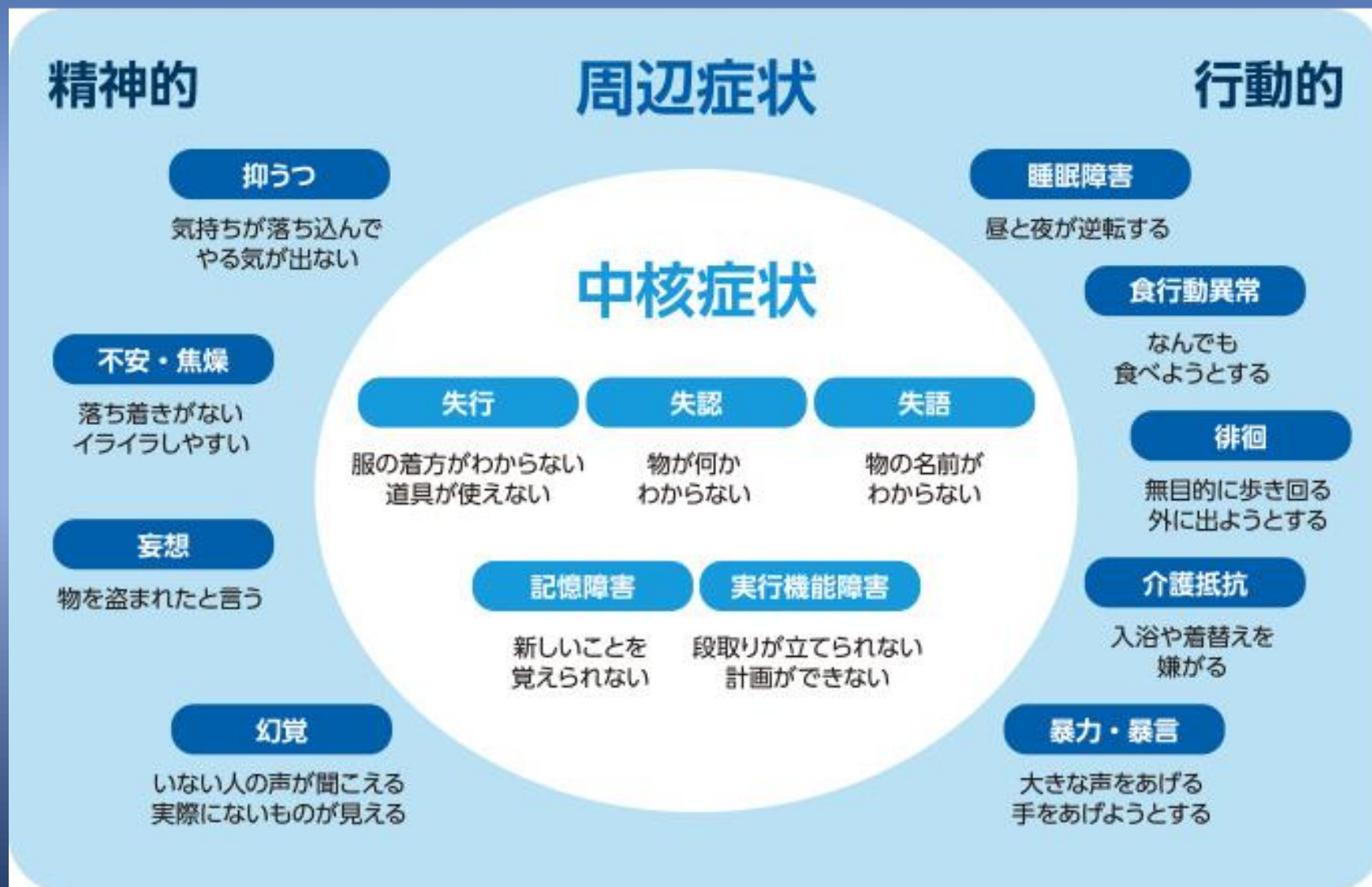
失語症との共通点

見た目からわかりにくい障害であるため、
他人から誤解を受ける可能性があることです。

コミュニケーションの取り方 (運動障害性構音障害)

- 拡大代替コミュニケーションの利用
- 書字の利用
- どの音が聞き取りにくい、違った音がでてしまうかを知る
- 話し方をゆっくり話してもらう
- 聞き取り側が、相手の発話に慣れる
- 相手の言ったことを復唱してあげる

認知症



認知症の言語障害

認知症においても失語症や構音障害の症状は出現する。

失語症や構音障害と認知症による言語障害の違いは？

⇒進行するか否かである

認知症の言語障害

「認知症で言葉がでなくなってきたので、リハビリをお願いしたいんです。」「希望はもっと言葉がですようにしてほしい。」
というケースにて依頼される場合があります。

認知症の言語障害

利用者は元のように改善したいと願う方が多い。
しかし進行していく過程で元のように改善していくのは難しい。

もしアセスメントの際に「リハビリをしたら、元のようになりますから」とCMが利用者に伝えてしまったら？

同じ失語症の症状でも・・・

脳血管障害での失語症は進行しない

認知症での失語症の症状は進行する



リハビリの内容も変わってくる

言語障害でよく見られるケース

- 失語症にてリハビリ依頼を受けるが構音障害だった
- 失語症にてリハビリ依頼を受けるが認知症だった
- 障害受容がまったくできていない
- 言語のリハビリ依頼を受けるが他の障害の方が重要だったケース



よりよいケアプラン作成のために
専門職へのアセスメント依頼が必要

言語障害者の心理

人と会話するのが怖い

人と会話することにストレスを感じる

人と会話するのをみられるのも嫌だ

自身喪失で無気力

障害の受容ができていない

生活における参加と活動に大きな影響を与えてしまう

言語障害者の心理



社会からの疎外感や孤独感

心の悩みを伝えられない！！

最後に

言語障害単独のケースは少なく記憶障害、注意障害等の他の高次脳機能障害が合併していくケースは多い。そのために脳のCT画像、MRI画像などの詳しい情報をふまえ予後の予測も必要となる。その上でその人にあったコミュニケーション方法をとっておく必要がある。

※ぜひお気軽にアセスメント含めご相談ください。